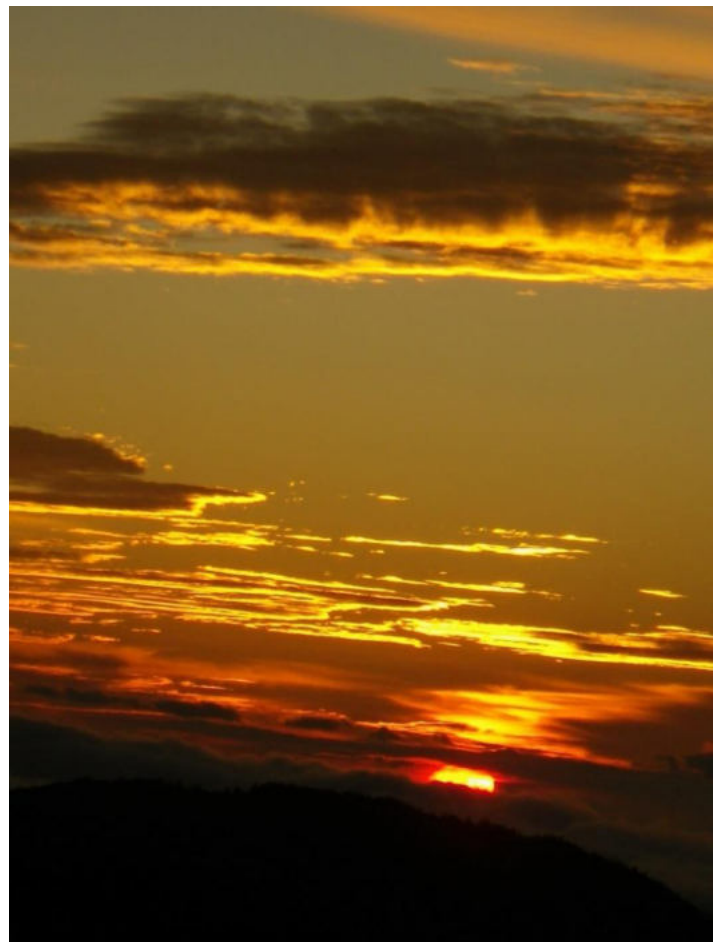
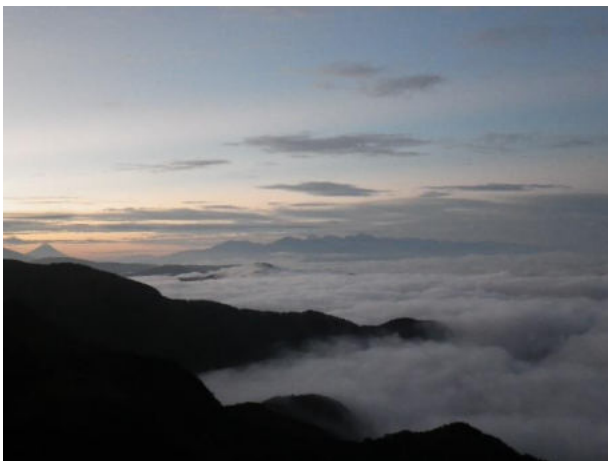
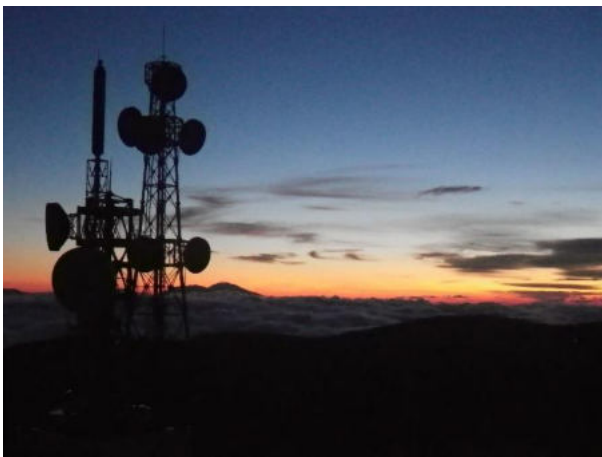


2019年9月29～30日(日・月) 近畿旧友会ハイキングクラブ ^{さんぽかい}「燦歩会」例会 (第484回)

ツアー 美ヶ原の自然を満喫(長野) その2

2日目 9月30日(月)

心配していた雨は夜中に上がり、快晴の一日が始まりました。
気温は13度ほどで、心配した程には冷えていません。就寝が早かっただけに、気の早い方は3時頃から動き始めたようです。屋上に出て満天の星を眺め、日の出を待ちます。



5時頃から東の雲の上辺が赤みを帯び始め、やがて太陽が顔をのぞかせます。
赤い陽の光を受けて、上空に浮かぶ雲が金色に染まり、まことに感動的な日の出でした。
雲海の向こうには、スマートな富士山のシルエットを見る事も出来ました。
(左下写真 中段左端)

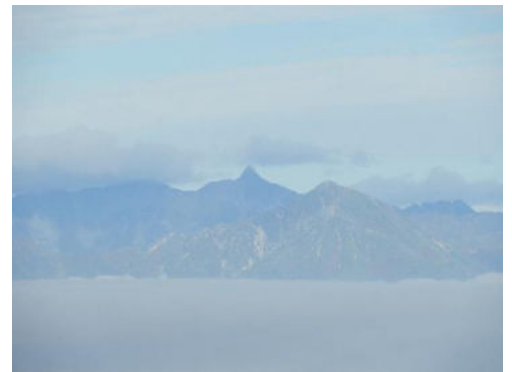
日の出を堪能した後、バスで美ヶ原の台地の西端「王ヶ鼻(おうがはな)」2008mへ、ミニツアーです。

ここでは360度、特に西方向御嶽山から北アルプス連峰の眺望が楽しめます。



王ヶ鼻の先端には石の仏像、神像が安置されています。いずれも雷の直撃を受けて傷んでいますが、木曽の御嶽山の方角を向いています。ここは御嶽山に祈りを捧げる為の聖地なのです。

足元の岩は、まるでミルフィーユのような、薄い岩の重なりです。火山活動のマグマが地表近くで冷えて固まる際に強い圧力がかかり、緻密な組成の硬い岩になったもので、「板状節理(ばんじょうせつり)」と呼ばれています。鉄平石(てっぺいせき)という名前で建材として使われています。(その1の「蛇足」をご参照願下さい)



雲海の向こう岸に北アルプス、槍ヶ岳も見えました。

(写真中央)



岩の間には、高山植物のマツムシソウが最後の華やぎを見せていました。

朝食後、健脚組と悠遊組に分かれて高原を散策します。

健脚組はアルプス展望コースを歩きます。時々霧が出て、先頭も見えない程になります。崖沿いの山道は、ガレ場と云うのでしょうか、板状節理の岩が細かく割れて、ゴロゴロ浮いている所も多く、歩みを鈍らせます。

木の枝が左の方だけに伸びているのは、風が常時強いたためだそうです。

霧が晴れて気が付くと、すぐ下には巨大な谷が広がっていました。





美しい塔（うつくしのとう）です。霧が出ると鐘を鳴らして、登山者に位置を知らせる避難塔として建てられたものです。塔には地元産の鉄平石が貼られています。

霧の晴れ間に、王ヶ頭の宿とテレビ塔が、左奥に見えました。

散策を終え、合流してバスに乗車。諏訪湖を目指して、南に降ります。



途中立ち寄ったのは、天然記念物「八島湿原」です。土と水の養分が少ないなどの特殊な環境で、植物が十分成長せず、しかもそれが枯れても腐らずに年々積み重なり、泥炭になっているのだそうです。なんと1万年の歳月で、泥炭の厚さは、8.5mにも。それがこの、一面に赤い、一種異様な風景を作り出しているのです。

霧ヶ峰高原を降り、諏訪湖を左に見ながら、12時に下諏訪町に着きました。

諏訪大社下社秋宮（すわたいしゃ しもしゃ あきみや）です。諏訪大社は信濃の国の一宮で、茅野市にある上社前宮、諏訪市にある上社本宮、そして下諏訪町にある下社春宮と秋宮の四社からなります。

諏訪大社では、御柱（おんばしら）の神事がよく知られていますね。7年目毎に神前の御柱が立て替えられます。

寅、申の年に山から切り出した直径1m、長さ17mものモミの巨木を牽いてくる勇壮な神事。一社で4本ですから、全体では16本。

木落とし坂の急坂を駆け下る様子が、しばしば紹介されていますね。

秋宮ではその巨木が重要文化財の幣拝殿の四方に建てられています。（写真黄円）

写真の柱は「一之御柱」で、時計回りに左へ「二」「三」「四」と幣拝殿を囲んで建てられています。一種の結界なのでしょう。

下社では、毎年8月から翌年の1月まで、神様はこの秋宮に居られるのだそうです。



昼食後に最後の目的地に向かいます。安曇野市のワサビ農場です。安曇野では北アルプスから流れ出る清冽な水を活かして、ワサビ栽培が盛んに行われています。

その農場の一つを訪ねます。広大なワサビ田、清らかな水。いかにも信州らしい光景を満喫し、一方「買い出し燦歩会」にも精出して、お土産も手に入れました。

J R松本駅から全員無事帰途につきました。



「晴れる燦歩会」の名をますます不動のものにしてしまう二日間でした。

* * * * *

相変わらずの補足・蛇足で失礼します。

オルゴールの事



諏訪湖周辺の町は、ひと頃「東洋のスイス」と呼ばれました。精密機械工業が盛んになり、特に時計、カメラなどの精密部品が盛んに作られたためです。オルゴールもその一つで、三協精機のオルゴールは、一時は世界シェアの90%以上を占めるに至り、今も多くのオルゴールのムーブメントには、

「Sankyo」のマークを見る事が出来ます。下社秋宮の門前に、オルゴール記念館がありました。様々なオルゴールの展示、上演、ショップ販売が行われています。

(残念ながら詳しく見る時間はありませんでしたが)

三協精機と云えば、スケート部を忘れる事も出来ません。寒さの厳しい土地柄を活かして、1950年代から世界のスピードスケート界に、数々の名選手を輩出。部設立以来40人を超えるオリンピック選手を送り出しました。

今は「日本電産サンキョー」とチーム名が変わりましたが、昨年のピョンチャンオリンピックでの高木菜那選手の活躍など記憶に新しい所ですね。

甘味の事

白いお菓子は松本で買い求めた「真味糖(しんみとう)」。鬼グルミと蜂蜜などを合わせた砂糖菓子です。甘みの中にクルミのほのかな苦みがお茶によく合います。昭和初期に松本で開かれた茶会で、「茶席の菓子に最適」と、裏千家淡々斎宗匠から「真味糖」と名付けられたのだそうです。



薄緑色は下諏訪の「塩羊羹」です。

海のない信州では塩は貴重品でした。明治初めに店主が羊羹に塩味を加えることを考え、十勝の小豆・地元特産の寒天・砂糖と塩、そのなじみ具合・折り合いを工夫して練り上げたのだそうです。アッサリした味わいの中に、甘みと塩味がやさしくなじんでいました。いずれも美味しく頂きました。

蛇足ですが、帰途の列車の中で賑給された「おやき」も美味しかったです。私のは「野沢菜」と「こしあん」でした。

* * *

ご 案 内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。

メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。
(事前に予約が必要な場合もあります)

今後の予定は

- 10月27日(日) びわ湖バレイを楽しむ(滋賀)
- 11月24日(日) 京都一周トレイル第3回 蹴上から銀閣寺前まで(京都)
- 12月15日(日) 納会(大阪)
- 1月26日(日) ちんちん電車に乗って住吉さんから堺の街を歩く(大阪)
- 2月23日(日) 西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策(大阪)
- 3月22日(日) 華岡青洲の里と粉河寺を訪ねる(和歌山) *青春18切符利用

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。(電話090-1484-4403)
ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。 (写真・文 生島 幸弥)